

9月7日・日本代表戦活動報告

みやぎ・仙台のスポーツボランティアが共にサポートした日

発行・グランディ・21ボランティア

編集・情報班

参加ボランティア： 全279人（最終確認人数）

ベガルタ仙台ボランティア	50人
東北楽天ゴールデンイーグルスボランティア	53人
仙台大学	26人
一般参加（応募された方）	65人
SV2004+MELON	6人
グランディ・21ボランティア	79人
（東北学院大学生を含む）	

ホームページアクセス記録（情報班提供ホームページ）

総アクセス	42,000	http://plaza.rakuten.co.jp/miyasta/	
8/31	1062	9/4	1874
9/1	1079	9/5	4314
9/2	1802	9/6	6527
9/3	1363	9/7	10003

KIRIN WORLD CHALLENGE キリンチャレンジカップ 2005 Go for 2006!

日時	2005年9月7日 19:20		試合形式	90分		会場	宮城スタジアム、宮城県	
天候	曇		気温	25.0℃		湿度	90%	
風	中		ピッチ状態	芝 良芝		観客数	45,198人	
マッチコミッショナー	松永 隆		副審1	金 季洙(キム・クス)/KOR		第4の審判員	家本 政明	
主審	権 鐘哲(クワン・ジョンヒム)/KOR		副審2	鄭 解相(ジョン・ヘサン)/KOR		記録担当	千葉 實	
日本代表	5		1	前半		3	ホンジュラス代表	
	ボール支配率 42.4%		4	後半		1	ボール支配率 57.6% 	
						4		KICK OFF

前半1対3と苦しい展開も、中村や柳沢、中田(英)など海外組の奮闘と、後半出場の小笠原の逆転ゴールで劇的な日本勝利！

代表戦を終えて・・・

グランディ21・ボランティア キャプテン 村松 淳司

7月の中旬頃、初めて9月7日に宮城スタジアムで、サッカー日本代表戦があると知らされてから準備に入ったわけで、実質1ヶ月半での短時間の勝負だった。もちろん、ボランティアを主体にしたサッカー協会と施設を一体化した運営をめざした。

最初から、在仙のボランティア組織をできるだけ多く結集し、スポーツボランティアとして、おそらく宮城では最大規模となる日本-ホンジュラス戦の運営に積極的に携わろうという計画をもって、グランディ・21ボランティアのキャプテンとして多くの組織との調整を行った。

とにかく短期間ですべてのことを決めていくのは苦しかったが、今となると非常に良い経験であったし、これが今度のボランティア活動の指針になることは町がないと考えた。その指針は

- 1) 観客の案内誘導はすべてボランティアが主体となって実施する
- 2) 宮城・仙台のスポーツ施設では必ずゴミの分別収集などエコ活動を行う

という大きな2つの目標をたてた。そのため、アクセスの悪さで有名なスタジアムに来られる観客への最初のホスピタリティポイントとしての「場外案内誘導」に、グランディ・21ボランティアを、場内の案内誘導にはベガルタ仙台ボランティアを、エコ活動の中心となるエコステーションには東北楽天ゴールデンイーグルスボランティアを中心に据え、各ボランティアのコーディネーターにはSV2004に協力を要請した。ベガルタボラも楽天ボラもそれぞれの試合以外でのボランティアはこれが初めてである。いわんや、ボランティア組織が結集して行うボランティア活動は宮城ではこれが初めてであり、日本全体を見てもこんな規模のボランティア活動はオリンピックやワールドカップのような巨大イベントをのぞけば、おそらく初めてだろう。

それに加えて県内から一般のボランティアを多数募ったわけで、結果、300名弱のボランティアがたった1日のスポーツイベントのために結集したわけである。けれどもあまりにも時間がなかったし、それに加えて初めてのことが多かった。宮城での代表戦はいずれも昼間のキックオフであり、19:20という遅い時間のものはなかった。まして夏休みを終えたばかりの9月初頭の、しかも水曜日の夜とあって、ボランティア活動にとっても過酷な日程となった。その上、台風の直撃さえ予測された、まさしく天が試練を与えたとしか思えないようなイベントであった。

結果から言えば、多くの観客は満足して帰ったことだろう。まれに見る乱打戦で、後半4点もの得点をした日本が、5-4で逆転勝ちしたわけである。ボランティアサイドも積極的に関わっていた、帰りの交通アクセスも、駐車場の混乱をのぞけばほぼ成功裏に終わった。私は利府シャトルの乗り場だったが、試合終了後、3000名もの観客をわずか40分で運び終えるという離れ業であった。すべてのボランティアが「失敗すれば二度と代表戦はない」という覚悟で望んだイベントであったのだが、ほとんど成功したわけで、その喜びは計り知れない。反省点も多かったが、その中でも重要なポイントは、やはり主催者であるサッカー協会との意思の疎通の希薄さであった。7月からの1ヶ月半、ボランティア代表としてはこの情報交換と意志の疎通にほとんどすべての時間を費やしたといつてよかったが、結局、それをクリアできなかったのがきわめて残念である。だが、ボランティア活動をやってよかったと思うときはどんなときにも必ずあるのだ。利府シャトルバスで待機列整理をしていたときに、ある女性が話しかけてきた言葉が印象的だった。私が「お待ちになってお疲れでしょう」と声をかけると即座にこう答えてきた。

「ぜんぜん！ 結構いいとこじゃない、宮スタって」

報告 ①

スムーズな帰りと運営課題

Eゲートにて思うこと。

車椅子担当として、過去の全てのイベントをEゲート付近で見てきた鈴木のご感想です。

先日の代表戦、帰りのスムーズさに驚きました。SMAPのときはあれほど右往左往した人が、物の見事に流れました。これはスロープの上と下でのスピーカーによる案内の効果もあると思いますが、ペガルト等で観客自身に宮スタ経験があり、道を知っていることが大きいと推測します。

また逆に今回はなぜあそこは通れないのか、といった質問も多数受けました。過去にきた経験があり、同じ感覚で来てみたらレイアウトが異なっていて迷うケースもあったようです。こう考えると、イベント毎にハードの運用を変えるのではなく、ゲートはここを使う、車椅子駐車場はここ、シャトルバス発着所はこちら、といったある程度固定した運営がベターではないかと考えます。

グランディ・21ボランティア

当日業務 車椅子担当 鈴木 寿彦さん



ボランティア手作りの案内・誘導看板、当日の設置は台風の影響で風が強くなり本当に大変でした。



総合プールに設置されたボランティア受付、休憩所にもなり食事時は混雑しました。

報告 ②

念願の代表戦

グランディ・21ボランティアは、使い勝手の悪い宮城スタジアムをソフト面からサポートするために始まりました。「いつかは代表戦を」の願いが叶った今回は、厳しい条件の中で最大のパフォーマンスを発揮できたと思います。

青いユニ姿の来場者の皆さんから聞かれる、試合前:「ゲートはどこ?」「トイレは?」「チケット売り場は?」、試合後:「シャトルバスの場所は?」「乗車券は?」等の質問に対し、できる限りの確に案内することができました。Nゲート付近で夜空に響く佐々木功さんの国歌を聞きながら走るサポーターにゲート案内をした時は「少しでも早くスタジアムの雰囲気味わえますように」と自分の気持ちも焦りました。少し残念なのは、試合前の「ゲート規制」情報がボランティアに伝わらず間違った情報を提供した時間帯があったことです。この部分は慎重に検証しながら次回への課題としたいです。

グランディ・21ボランティア

当日業務 ボランティアセンター担当 野坂 幸子さん



研修会の様子
事前に3回の研修会を開催し、多くの皆さんにご参加いただきました。



2005.08.17

2005.08.17

宮城スタジアム初のエコステーション

イーグルス戦以外のボランティアは経験がなく、さらに宮城スタジアムという場所も初めてでしたので、エコサポートを担当しましたが、試合の流れや観客数の多さなど不安もありました。しかし、多くのスタッフが各自率先して動いてくれたので、N側ステーションのリーダーとしてはとても助かりました。

当初、無人の予定だった紙コップのごみ箱へも余裕がある時は一人ずつ着いてもらい、混乱は少なかったのですが、ちょっと目を離すと(無人になると)、飲み残し用のバケツが吸い殻入れになっていたのも、この辺は次回以降改善する必要があります。

想像していたよりゴミの量が少なかったと思います。特にフルスタと違い、お弁当関係のゴミが少なくハーフタイム時も予想していたほどエコステーションにゴミを持ってくる人は多くありませんでした。(売店やトイレには沢山の人が並んでいましたが...)、集積場へのゴミ袋の移動も、各自が状況を見てコマメに運んでくれたので、スムーズに運営できたと思います。結果としてN側全体としては、ピークの試合終了後でも比較的余裕があったように感じました。みなさん、お疲れ様でした。

イーグルスエコサポートスタッフ 当日業務 エコサポート 本間 邦彦さん



宮城スタジアム初の分別のためのエコステーション、当日は場内に4ヶ所設置されました。



キリンから提供された紙コップ用のごみ箱、風のために飛びやすく宮城ではつみか差ねが一般的なので工夫が必要でした

アウェイの活動

9/7(水)宮城スタジアムで開催されたサッカー日本代表戦において、ごみ減量・分別に取り組みました！MELONにとっては、普段の活動のホームグラウンドである仙台スタジアム、フルキャストスタジアム宮城以外の“アウェイ”での初めての取り組みでした。

この日は日本代表戦ということで、いつも宮城スタジアムでボランティア活動をおこなっているグランディ21ボランティアに加え、仙スタ・フルスタのボランティアや一般公募の方々も加え、全部で240名ほどがボランティア参加しました。

その内、約60名がエコステーションを担当するエコサポートに任命されMELONはエコサポートの全体指揮を行いました。日本代表戦に限らず宮城スタジアムでエコステーションが設置されるのは初めてであり観客も慣れていない中、ボランティアさんも観客への呼びかけ・対応にかなり苦労していたようです。

最終的にトイレのごみ箱など業者が回収した部分のごみは分別されず、課題として残りましたが、エコステーションでは観客とのトラブルもなく無事終了。宮城スタジアムにおいてエコステーションを設置し全ゲートでボランティアがごみ分別を行ったという事は今後に向けて大きな一歩であったと思います。今後も宮城県で開催されるスポーツイベントでは出来る限り環境への取り組みを広げていきたいと思っておりますので、皆さんもご協力をよろしくお願いいたします。

MELON(みやぎ・環境とくらしネットワーク) 当日業務 エコステーション担当 小林 幸司さん

ごみ回収の仕組み見直しへ

9月7火、当日は台風の影響が心配されたが幸い雨は降らなかった。しかし、ゴミ回収には天敵とも言うべき強風が続いており、エコステーションの設置に気を配らなければいけなかった。幸い、私の配置場所であるNゲートは最も風の影響の少ない所であった為、ゴミ袋が風に飛ばされないように気を配る程度であったが、その他のゲートでは、纏めたゴミ袋が風邪で飛ばされないか、常に目を配っていたようだ。

さて、事前の準備は荒しくもあつという間に終了し、あとはお客様の入場を待つばかりとなった。初めてのサッカーボランティア、加えて国際試合という事もあり、どれだけのお客様がなだれ込んで来るのかと、不安と期待の入り混じった状態であったが、いざ開場されても私が想像していたよりお客様お数は少なかった。考えてみたら、開場と共にゴミを持って来るお客様というのは、席取りの為に並んでいたお客様が持ち込む食べ物や飲み物のゴミ位なのだ。更に当日はペットボトルや缶・瓶などの持ち込み検査が厳しく行われていた為、エコステーションに持ち込まれる事も少なかった。(終了時まで見てもゴミ袋3分の1も溜まらなかった。)

その後、試合開始までのゴミの出は各ゴミ袋1袋といった所か。2時間近く粘ってこの程度のゴミの量。どんな修羅場が来るのかと思っていたが、お客様の入り具合の割には非常にゴミが少ない状態だった。その代わり、紙コップの回収率(つまり、ビール等の飲み物の消費量)は始まってから最後まで変わらなかった。

その後、試合が始まると、ぴたりとお客様を見なくなった。コンコースの出店の方達も退屈する程の静けさ。サッカーボラさんから以前聞いた話の通りだと、その時心底思ったものだ。その方曰く、「野球は1点見逃してもまたチャンスが来るけど、サッカーは1点を見逃してそのまま試合に決着が着いたりするから、ほとんどの人は席を立たない。」だそうで。正にその通りとなった現状に、エコステーション班は集積所にゴミを持って行ったり、休憩を取ったりしたのだった。

休憩の体制を考えていた時にふと感じたのは、サッカーの場合、休憩の取り方が非常に難しい、という事だった。休憩のタイミングとしては前半45分・後半45分の間しか無く、野球の様にきっちり1時間のお昼+30分の休憩という風にはいかないようだ。しかし、休憩時間が少ない分、サッカーは試合時間が決っている。試合状況いかに延長がありえる野球との大きな違いはやはりそこだった。時間が進めば確実に活動時間は減って行く。終わりが見えると気持ちの面で随分楽なのだ、私はこの時初めて体感した。

第二の修羅場と聞いていたハーフタイムに突入しても、エコステーションの忙しさは前半とあまり変わらなかった。確かにゴミは持ち込まれるのだが、フルスタと違い分別は「一般」・「資源」・「紙コップ」のみ。お客様への啓蒙活動も大分スムーズで、ブラゴミの区分が無いというのは大きな違いなのだと思う。取合えずきれいな紙ゴミが無いかをチェックしてもらい、それ以外のゴミは全て一般ゴミへ。誘導としては簡単なのだが、いかにせんいつもの癖で、食べ残しやブラゴミを目で追ってしまう。暇な時間を利用して、一応綺麗なブラゴミを一つの袋に纏めたりもした。短いハーフタイムもあつという間に終了し、またお客様の居ない静かな空間が広がる。が、しかし、先程と違うのは試合終了後に向けての準備だった。

4万人のお客様が一斉に帰るといふのを考えると、単純計算でも各エコステーションで1万人のお客様からゴミをお預かりする事になる。フルスタの場合、多くても各ゲート5千人。やはり倍の規模のお客様となると、どんな事態が起こるか分からなかった為、万全の体制を取る事にした。机に一般ゴミの袋を張り出し、資源ゴミは2名の人員に直接呼びかけ対応してもらった。「綺麗な紙ゴミはこちらです!それ以外は向こうのゴミ箱へお願いします!」と、言った具合だ。

紙コップはステーションの端と端に2箇所回収場所を設置し、2名づつ計4名での対応となった。一人が受け取り、一人が一定量で重ね、どんどん空いているスペースに積んでゆく。袋詰めは最後に回した。残りの人員は全て一般ゴミの回収に回る。お客様から差し出されるゴミがどんどん溜まってゆき、新しいゴミ袋を出すと、それがすぐに一杯になる、そういった状況だった。ずらりとお客様が並んで出口へ向かう。試合が終了して30分程度して、その波が一瞬だけ引いた。私はその時点で終了、後は片付けだけと思った(なぜならフルスタの最後の波は30分程度なので)、だがそうでは無かった。

波が引いたのは本当に一瞬だけで、その後直ぐにまた行列が出来た。その第二陣は、混雑を避けて出てきたお客様や、勝利の喜びにスタジアム内に残っていたお客様だったのだ。その後また20分程その波は続き、その間叫び続けたスタッフの声は酷く掠れていた。しかし、片付けを始めながら皆で今日を振り返り話をしていた時の顔は、酷く満ち足りていた。各言う私も、疲れよりもやり遂げたその事がとても誇らしく思えてならなかった。

最終的にゴミを片付け、集積所に持っていく時に気づいた事。あれ程の混雑だったにも関わらず、全体的なゴミの数が少ないと言う事。フルスタは各ステーションで1試合平均約30~40袋・多い時には60、最高記録は80なんて数値もある。がしかし、Nゲートのその日のゴミ袋数は20袋程度であった。

だが、落ち着いて考えてみると売っている商品自体があまり量を取らないものが多いし、買い物をする時間が圧倒的に短い事から、圧倒的にサッカーの試合というのはゴミ量が少ないのでは?と感じた。

今後、野球興行でもサッカーの様にゴミ排出の絶対値の引き下げを検討できないだろうか?サッカー興行の全てを真似する事は出来なくとも、やはり実際に体験してみて参考にすべき所は数多くあったように感じた。今一度、ゴミ回収のシステムや仕組みを見直し、吟味して行く必要があると切に思う。そうして行くことで、ボランティア側にかかる負担を軽減する事もできる筈。

野球がイイ・サッカーがイイでは無く、両方から参考にすべき良い点を吸収し、仕組み化し、満足せずに常に改善を考えて動く。そうする事が運営する側にとってもボランティアにとっても最善の事なのではと感じた。

楽天野球団 当日業務 エコステーション 新谷 和子 さん

報告 ⑤

手作り看板に感謝

当日は雨も小ぶりになり、徒歩で仙台駅へ、仙台駅東口の2階連絡通路を出ると、シャトルバス乗り場を指す、誘導掲示が設置され、スムーズにシャトルバスへ。ここはやはり東口はフルスタも近いので、クラッチかカラスコのマスコット・ダミーに案内標識を持たせる等の洒落も欲しかったのですが、(準備も大変ですが...)仙台スタジアムのエコステーション等案内標識などで試してみたいと思います。

試合前半バック・スタンドはカテゴリー・チェックも薄暗く、カテゴリーのチェックが遺辛かった。事前にメイン・バックの案内(と言うよりもチェックですが)を徹底し、入り口ではカテゴリーのチェックを重点的に行なえばよかったかも知れません。

立ち見のお客様にはやんわりと、「席をお探ですか?」と一声掛けつつ、試合後半前は複数人数でチケット・チェックして改善しました。

帰りもシャトルバスへ案内も大きな看板誘導が存在し、これもスムーズに。手作り看板を制作のボランティアの皆様へ感謝です。

スポーツボランティア SV2004

当日業務 E側総合受付 金澤 亨 さん